

第 13 回アジア・オセアニアてんかん学会 (AOEC) 参加登録受付中です！

<https://www.epilepsycongress.org/aoec/>

皆さま

6月10日より完全 Web 開催で第13回アジア・オセアニアてんかん学会議が開かれます。

今回は6月12日(土曜)と、13日(日曜)に2回にわたって(日本てんかん学会共催の JES session)、以下のような内容でてんかん臨床の多様な側面の実践においてリアルに役立つ講演が企画されております(全て日本語での講演です！)。

てんかん臨床にさまざま立場から取り組んでおられるエキスパートの方々による各講演をお聞きいただければ、「エッセンス中のエッセンス」を短時間で身に付けていただけたと思います。ふるってご参加ください！

6月12日(土曜) 13:00 – 14:00

1: Fundamental knowledge in epilepsy care

(てんかんケアの基礎情報: JES Session, Hall 3: Kyoto; 2021, 13:00 – 14:00)

初学者向けの基礎的事項として、てんかんを診療する上でどうしても必要となる、脳波、精神科的アプローチ、外科治療の適応について、それぞれ第一線で活躍されている先生方にお話しいただきます。

Chair: Hiroto Iwasa, MD, Satsuki Watanabe, MD(座長 岩佐博人先生、渡辺さつき先生)

1) Basic lecture for ictal EEG in adult epilepsy.

Naokata, Usui, MD, National Epilepsy Center, Japan

(成人における発作時脳波の解析. 静岡てんかん・神経医療センター 臼井直敬先生)

2) Tips of psychiatric, psychological approach in epilepsy patients.

Kohichiro Hara, MD, Department of Psychiatry, Asai Hospital Chiba, Japan

(精神科的・心理学的アプローチの基礎知識と対応のコツ. 浅井病院 原広一郎先生)

3) When is epilepsy surgery considered ?

Ryoko Honda, MD, Department of Pediatrics, Nagasaki Medical Center, Nagasaki, Japan

(内科系医師が外科治療を考えるべきタイミング 長崎医療センター 本田涼子先生)

6月13日(日曜) 13:00 – 14:00

てんかんを取り巻く最新情報 (JES Session, Hall 3: Kyoto; 13.06.2021, 13:00 – 14:00)

2: Up-to-Date epilepsy news

本セッションでは、皆様が知識を Up to Date としていただけるように、最近の話題から地域医療連携、てんかん重積状態、iPS細胞に関する話題を、それぞれ第一線で活躍されている先生方にお話しいただきます。

(座長 廣瀬伸一先生、國井尚人先生)

1) てんかん地域連携診療計画パスの提案と有効的運用 広島大学 飯田幸治先生

2) てんかん重積での多面的アプローチ 東京医科歯科大学 稲次基希先生

3) 人工多能性幹細胞 (iPS) を利用した病態解明 福岡大学 田中泰圭先生

●●●●●●●● 上記以外の 日本てんかん学会会員による発表 ●●●●●●●●

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月10日(木) 10:00-12:30

Practical use of EEG (脳波の実践的使用)

静岡てんかん・神経医療センター 井上有史先生

ASEPA (アジアてんかんアカデミー) の教育コースで、新生児、てんかん、認知症/変性疾患、救急医療における脳波の実践的な使用に関するセッションです。私はてんかんにおける脳波判読の初歩的な説明をします。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月10日(木) 10:00-12:30

EEG in dementia and neurodegenerative diseases

国立精神・神経医療研究センター 医師 金澤恭子先生

認知症や神経変性疾患における臨床的な脳波検査の有用性について概説する。まずしばしばみられる generalized rhythmic delta activity (GRDA) の意義について、次いで認知症の診断における脳波検査の位置づけについて述べる。最後に特徴的な脳波パターンを有するプリオン病について提示する。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月10日(木) 11時50分~12時20分

新規発症てんかんにおける抗てんかん薬の選択

九州大学大学院医学研究院保健学部門検査技術科学分野 教授 (九州大学病院 脳神経内科) 重藤寛史先生

新規にてんかんの診断を受けた、焦点てんかん患者、全般てんかん患者に対し、投与する抗てんかん薬の優先順位、投与開始する場合に考慮しなければならない要因、などをコンパクトに講義します。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月10日(木) 13:00-14:00

Chairman's Symposium (学術大会議長シンポジウム) : What is the scope of epilepsy care for the Asian Oceanian Region?

アジア・オセアニア領域のてんかんケアの領域

京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座 教授

京大病院てんかん診療支援センター長 池田昭夫先生

AOECでは、毎回大会初日に学術大会議長シンポジウムが開催されます。今回は、「ILAEとWHOの密接な協力体制(It's a small world)」ILAE 理事長 Wiebe 教授、「薬剤はてんかん治療の最優先事項」IBE 理事長 Brodie 教授、「アジア・オセアニア領域のてんかんケア」ILAE アジア・オセアニア領域前代表 Lee 教授、「アジア・オセアニア領域てんかん外科の過去現在未来」ILAE 前副理事長田中達也教授に、講演していただきます。

司会は今回の学術大会組織委員会の議長の池田 (ILAE アジアオセアニア領域代表) と Ding 教授 (IBE 西大洋州領域代表) が務めます。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月10日(木) 13:00-14:00

Chairman's Symposium: What is the scope of epilepsy care for the Asian Oceanian Region?

The past, current and future of epilepsy Surgery in the Asian Oceanian region.

国際てんかん学会前副理事長、元日本てんかん学会理事長 田中達也先生

アジア・オセアニアのてんかん外科の歴史を振り返り、日本が率先して明治・大正時代に取り組んだてんかん外科と、現在から未来への、アジア・オセアニア地区の文明国の現状と、貧困にあえぐ開発途上国の問題点を鋭くえぐって討論する講演になればと考えています。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月10日(木) 15:30-16:30

Stroke and epilepsy; mimics and comorbidity

New treatment approach for post-stroke epilepsy

国立循環器病研究センター 脳神経内科 田中智貴先生

近年、高齢者てんかんの増加が社会的問題となっているが、その主因である脳卒中後てんかんの治療について発表する。内容としては、脳卒中後てんかんの定義とその定義における治療方針の考え方、脳卒中後てんかんの一次予防、二次予防について最新のエビデンスを踏まえて、治療薬の選択の仕方、今後の展望について考察する。また、我が国で行った、前向き脳卒中後てんかんの観察研究についての結果も報告する。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 9時35分~11時

Behavioural issues and epilepsy in the 21st century

The pitfalls for proper recognition

愛知医科大学精神科学講座 教授 兼本浩祐先生

精神症状が出現したときに陥りやすい間違いを3つ10分ほどで紹介します。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 11時30分~12時30分

The mystery of psychogenic non-epileptic seizures (PNES): questions and answers

国立精神・神経医療研究センター病院 精神科 医長 谷口 豪先生

PNES(心因性非てんかん性発作)の病態・診断・治療に関するシンポジウムです。私は「臨床の特徴と診断」というテーマで話します。PNES診断の進め方の基本や診断困難例について述べる予定です。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 11:30-12:30

Parallel session : Challenges in the management of status

epilepticus in special situations の中の Patients with suspected autoimmune ncephalitis

聖マリアンナ医科大学小児科 特任教授 山本 仁先生

自己免疫性脳炎のうち、小児科領域では、抗NMDA受容体抗体関連脳炎が注目されている。本症の約60%に奇形腫がみられ傍腫瘍性脳炎に属すると考えられるが腫瘍が見られないケースも多くあり、自己免疫性と考えられている。けいれん重積状態となることも多く治療の実際を症例提示含め報告する。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 11:30-12:30

パラレルセッション 侵襲的記録から頭皮記録にいたるまでの広帯域脳波の有用性について

小児の頭皮脳波における高周波振動

岡山大学大学院医歯薬学総合研究科発達神経病態学 教授 小林勝弘先生

小児の頭皮脳波で非侵襲的に高周波振動(HFO)や速波振動(FO)を検出することの実際と問題点を論じる。各種小児てんかんにおける頭皮FO/HFOの検出について論じるが、中でも発達性てんかん性脳症における頭皮FO/HFOの意義と今後の研究の展望について議論する。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 11:30-12:30

パラレルセッション 侵襲的記録から頭皮記録にいたるまでの広帯域脳波の有用性について

頭皮上脳波における発作時DC電位とHFO

京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座 教授

京大病院てんかん診療支援センター長 池田昭夫先生

発作時DC電位とHFOは、脳内電極からの記録で、てんかん外科の焦点決定のbiomarkerになりつつありますが、さらに頭皮上脳波でのその有用性の検討が進み、research topicからclinical toolに進みつつあります。今回は特に、頭皮上脳波での発作時DC電位とHFOの現状をつまびらかにして、今後の方向性を議論することが期待されます。

==== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 13:00-14:00

How to record giant SEPs and jerk-locked back averaging in

Cortical Myoclonus

京都大学医学部附属病院検査部 講師 人見健文先生

皮質ミオクローヌスは てんかん性ミオクローヌスとも呼ばれる大脳一次運動感覚野の過剰興奮による不随意運動で、進行性ミオクローヌステんかんなどで認められます。今回、大脳の一次運動感覚野の過剰興奮の評価法である巨大体性感覚誘発電位、Jerk-locked back averaging、皮質反射に関して、その概論からビデオ記録を用いた検査の手順までを説明いたします。皆

様の参加、御視聴をお待ちしております。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 13:00~14:00

ディベート「てんかん外来における遠隔診療 対 対面診療」

東北大学大学院てんかん学分野 教授 中里信和先生

このセッションでは、てんかん外来における遠隔診療と対面診療について比較する。最初に中里信和が遠隔診療を支持する立場からの講演を行い、続いてタイの Kamornwan KATANYUWONG 先生が対面診療を支持する立場からの講演を行い、最後に2人を中心に遠隔診療と対面診療の優劣についてディベートを行う。司会はオーストラリアでの遠隔診療の経験が深い Nicholas LAWN 先生がつとめる。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 14:30-15:30

Crosstalk session: Sleep disorders versus seizures; how to differentiate?

東北大学大学院てんかん学分野 准教授 神 一敬先生

睡眠関連疾患とてんかんの鑑別を考えるセッションです。千葉茂先生と韓国の Seung Bong HONG 先生が座長を務められ、神一敬が成人における鑑別、シンガポールの Hian Tat ONG 先生が小児における鑑別について、20分ずつの発表を行い、最後に15分間のパネルディスカッションが予定されています。成人における鑑別では、パラソムニア（ノンレム関連およびレム関連）と前頭葉てんかんの鑑別について概説します。興味のある方は是非ご参加ください。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 14:30-15:30

ASEPA Focus Session: Neurocritical care in pediatric epilepsy - Part 1

Pathogenesis of FIRES and AERRPS (難治頻回部分発作重積型急性脳炎の病態)

東京都医学総合研究所 脳・神経科学研究分野 プロジェクトリーダー 佐久間 啓先生

Febrile Infection Related Epilepsy Syndrome (FIRES; 難治頻回部分発作重積型急性脳炎) は熱性疾患に伴い難治なけいれん重積をきたす原因不明の疾患で、極めて稀であるがその重篤性から臨床的に重要である。2018年に consensus definition が提唱され、ILAEではFIRESという用語が正式に用いられるようになった。髄液中炎症性サイトカインの高値など神経炎症の関与を示唆する証拠があり、この知見を元に近年 Anakinra などの抗サイトカイン療法が試みられている。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 16:00-17:00

Clinical Spotlight Session: Why am I still having seizures? -management of the patient with continuing seizures.

国際てんかん学会前副理事長、元日本てんかん学会理事長 田中達也先生

ILAE 理事長の Samuel Wiebe, てんかん治療の権威、Patrick Kwan, 前理事長の Emilio Perucca が演者の素晴らしいセッションです。薬剤耐性てんかんの問題点が主なターゲットです。ぜひ、ご拝聴ください。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 19:00-20:00

Round Table Discussion: Issues of Epilepsy Surgery in Asia Oceania

国際てんかん学会前副理事長、元日本てんかん学会理事長 田中達也先生

座長として、討論の取りまとめ内容の紹介: アジア・オセアニアのてんかん外科の問題点を自由に提起していただいて、解決法の方向性を一緒に考えてもらう自由参加のラウンドテーブルです。日本の先生方の、積極的なご参加をお願い致します。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月11日(金) 19:00-20:00

Network Tables

京都大学大学院医学研究科 てんかん・運動異常生理学講座 教授

京大病院てんかん診療支援センター長 池田昭夫先生

6月11日（金）、12日（土）の夜は、19時から20時の1時間、それぞれ15の各テーマのexpertを囲んでNetworking table（10名のroundtable discussion）が開催されます。それぞれのテーマで少人数の参加者がexpertを囲んで、様々な議論を展開できる貴重な機会です。

Network Tables allows delegates to join lively discussions and shows them an overview of tables by topic and who is attending, in order to let them book their seats strategically.

All registered delegates will receive an invitation to book a seat at a table a week before the congress starts.

You can find out more about Network tables here:

<https://www.networktables.com/landing/roundtables.html>

=====●=====●=====●=====●=====

6月12日（土）10:00-11:00

The cost implications of community programmes

埼玉医科大学小児科教授・てんかんセンターセンター長 山内秀雄先生

日本国内におけるてんかん地域診療連携のありかたを中心に、てんかん学会が取り組むべき合理的で経済効率の高いてんかん診療を行うための今後の課題について考察する。

=====●=====●=====●=====●=====

6月12日（土）12:08-12:19

Post main session: Epilepsy and comorbidities: A translational crosstalk. Sleep disorders and epilepsy

東京医科歯科大学精神行動医科学 助教 高木俊輔先生

てんかんと睡眠の関係は密接であり、相互に影響を及ぼし合っている。睡眠剥夺や睡眠サイクルはてんかん発作を助長する。また、睡眠相によっててんかん発作の出現率に違いがある。逆にてんかんを有するかたは不眠などの睡眠障害を有する率が高い。

また、睡眠関連疾患の中にはてんかんと鑑別が必要となるものがある。例えば、レム睡眠行動障害や睡眠時遊行症などのパラソミアや周期性四肢運動症候群などの睡眠関連運動障害である。

今回はこれらの睡眠・てんかんの相互作用、鑑別について概説する。

=====●=====●=====●=====●=====

6月12日（土）13時から14時

How to record ECoG

東京医科歯科大学脳神経外科、教授、前原健寿先生

このテクニカルセッションでは、まず ECoG の特徴を述べた後に、どのような電極を用いてどのようにして電極を設置するかを、側頭葉内側への留置法、SEEG、開頭による電極留置術に分けて具体的に説明します。次に wide-band analysis の理論的背景を説明し、MRI 陰性症例を提示して実際の焦点診断、治療を提示します。なお Yu 先生からは、術中皮質脳波の適応疾患、術前準備、記録法、麻酔薬の影響、トラブル回避について詳細に解説していただく予定です。

=====●=====●=====●=====●=====

6月12日（土）14:30-15:30 の後半

Neurocritical care in pediatric epilepsy Part 2

ソレイユ川崎小児科・副施設長 須貝研司先生

Management of status epilepticus in infants and young children として、prehospital treatment, early SE, established SE, refractory SE の治療とそれぞれの段階における治療薬の長所短所の比較を述べ、さらに super-refractory SE と全身管理について簡単に触れた。

=====●=====●=====●=====●=====

6月13日（日）10時から11時

「Can we reduce the treatment gap in epilepsy surgery ?」

自治医科大学 脳神経外科教授、附属病院副病院長 川合謙介先生

このセッションは ILAE 会長の Wiebe 先生と加藤天美先生を座長として、アジア・オセアニア地区のてんかん外科の普及にどのように取り組むべきかを論じます。最初に私、川合がアジアのてんかん外科の現状についてお話しします。

次いでインドの Chandra 先生がてんかん外科の有効性について話したあと、インドネシアの Mttaqin 先生が未導入国においてどのようにてんかん外科を立ち上げてゆくか、そして最後に中国の Luan 先生が大規模てんかんセンターについて話をします。てんかん外科における treatment gap は、国ごとの問題であるとともに、日本国内でも地域差解消のために無視できない問題ですので、是非多くの皆様にご視聴いただければ幸いです。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月13日(日) 11:30~12:45

てんかんと社会「てんかんと COVID-19 パンデミック」

東北大学大学院てんかん学分野 教授 中里信和先生

このセッションでは、新型コロナウイルス蔓延下でのてんかんをとりまくさまざまな問題とりあげる。患者コミュニティの現状については、中国の Ding DING 先生とイタリアの Franchesca SOFIA 先生が発表する。

遠隔医療の現状については、日本からは中里信和が「遠隔医療の発展が、日本ではなぜ遅れているのか」をテーマに、インドからは Sanjib SINHA 先生がパンデミック化の遠隔医療の進歩について、それぞれ発表する。司会はオーストラリアてんかん財団 CEO の Graeme SHEARS 先生がつとめる。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月13日(日) 11時30分~12時30分(発表時間 11時57分~12時8分)

最新のてんかん外科 (State of the art epilepsy surgery)

国立精神・神経医療研究センター病院脳神経外科 部長 岩崎真樹先生

脳梁離断術は難治のてんかん発作を軽減する目的に行われる。しかし、手術適応が明確でないこともあって、その実施は施設や術者によって大きく異なる。近年は、特にウェスト症候群などで発症した小児の難治性全般てんかんに対する有効性が見直されている。この発表では、脳梁離断術に関する最近の知見を紹介する。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月13日(日) 11時30分~12時30分

Genetic investigation in epilepsy

iPS cell study for epilepsy treatment

福岡大学医学部 総合医学研究センター 教授 廣瀬伸一先生

人工多能性幹細胞 (iPS 細胞) は、神経細胞に分化しうることから、てんかん治療への応用が期待されている。本講演ではてんかん治療における iPS 細胞の再生医療、抗てんかん薬の薬効・独 k 製評価と創薬への応用について自験例を含めて概説する。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

6月13日(日) 11時30分~12時30分

Epilepsy in the elderly

Epidemiology of epilepsy in the elderly in Japan

国際医療福祉大学医学部脳神経内科教授、国際医療福祉大学成田病院 てんかんセンター長 赤松直樹先生

高齢者てんかんの疫学、臨床、最新の研究動向、認知症との関連について解説します。特に日本の久山研究および多数例のレセプトデータについて紹介します。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====

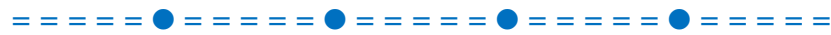
6月13日(日) 13時~14時

Amplitude integrated EEG in paediatric patients

愛知医科大学医学部小児科 教授 奥村彰久先生

Amplitude-integrated EEG (aEEG) は脳波活動の振幅に着目したトレンドグラムであり、現在新生児の脳機能モニタリングに広く用いられている。aEEG の長所は装着や記録の意義が容易で、判読も通常脳波に比べて容易である。本セッションでは、私と Fung 教授の2名で、aEEG の総論と新生児および年長児における aEEG について解説する。

===== ● ===== ● ===== ● ===== ● =====



6月13日(日) 14:30-15:30

片頭痛とてんかん：両者は類似の特性を共有するか？ 共存症としての片頭痛とてんかん

獨協医科大学 副学長 平田幸一先生

片頭痛とてんかんはその臨床的意義のみならず病態生理学的展望からも複雑かつ双方向性関係がある。

たとえば、てんかん発作に起因する頭痛はてんかんの症状と考えられる。一方、片頭痛の前兆により誘発されるけいれん（ときに Migralepsy とよばれる）は片頭痛の前兆によって引き起こされるけいれんであることは明らかであるが、前兆のない片頭痛とてんかんの関連の証拠はまだ不足している。



6月13日(日) 16:00-17:00

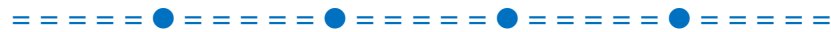
Clinical spotlight session: Clinical features and semiology of different seizures types; why it matters?

Focal versus generalized seizures in children

北海道大学病院小児科 診療准教授 北海道大学病院てんかんセンター・副部長 白石秀明先生

小児期における特徴のある発作症状と、てんかん症候群の特徴に関して紹介する。

特に、小児期に特徴のスパズム、焦点性発作、Atypical evolution について紹介する。



6月13日(日) 16時30分～17時15分

アート展のハイライト Highlights of the Art Exhibition

九州大学大学院医学研究院保健学部門検査技術科学分野 教授 (九州大学病院 脳神経内科) 重藤寛史先生

AOEC 関連国から「てんかんをめぐるアート展」に出展された「作品の写真」から優秀作品をいくつか選び、作者の想いを語っていただく予定です。

IBE（国際てんかん協会）、CAAE（中国抗てんかん協会）、ILAE および日本の「てんかんをめぐるアート展 2020 実行検討委員会」のメンバーが協力して作品を募集しました。その結果、WEB での開催にも関わらず、43 名、70 を越える作品が応募されてきました。インド、中国、日本からの応募が大半でしたが、いずれもエネルギーに満ちた力作であり、「てんかんのある世界」とは何なのか、「アートのもつ力」とは何なのか、を考えさせてくれる作品です。入場は無料ですので、Art exhibition に是非お寄りください。最終日には（6月13日 16時半～17時15分、Hall4: Osaka）、「Highlights of the Art Exhibition」として、日本におけるてんかんとアートの話（井上有史先生）、応募作品の紹介ビデオ、優秀作品の作者の声を聞くイベント、を行う予定です。ふるってご参加ください。

